

# よぶわ

11月8日・9日

学び・発表・交流の2日間

## 芳川地区文化祭が 開催されました

当日文化祭では作品や活動内容の展示、体験コーナー、ステージ発表、ミニコンサート、劇団であい舎による演劇公演など、今年も盛りだくさんの出し物でにぎわいました。

作品展示部門で最初に目につくのが、筑摩野中学校美術部による大きな絵『最後の悲劇』。角がある小型のクジラ「イッカク」を中心に、ゴアラ、ふんころがし、鷲などの生き物が中学生の感性でみずみずしく描かれていました。第57回松本市市民体育大会総合優勝旗とトロフィーの展示の先には、各種団体の活動の成果がところ狭しと展示されていました。



「食生活改善推進協議会」では、塩分0.6%と0.8%の味噌汁の飲み比べが体験できました。たった0.2%の差ですが、結構違いが分かります。「この中間がいいですよ」と、とアドバイスをいただきました。3年前からこの芳川地区文化祭にブースを設けている「芳川地区健康づくり推進員会」は、市長からの委嘱のもと活動しています。1kgの脂肪のモデルが展示されていました。この脂肪の大きさを目の当たりにすると、健康に対する意識が高まるように感じます。



平成26年11月1日 現在
総世帯数 7,178世帯
総人口 16,660人
男 8,287人
女 8,373人

一方、芳川体育館内の特設ステージでは、太鼓の音がドンドンと胸に響き渡る、ソーラン節同好会による舞踊を皮切りに、各種ダンス、カラオケ、演武の団体が日頃の成果を生きて発表していました。そして、芳川小学校体育館では、芳川小学校、筑摩野中学校のブラスバンド、金管バンド、合唱団や公民館サークルによるミニコンサートが行われました。

また、各種体験コーナーも好評で、毎年人気の、ふっくらとした「きびおこわ」の販売をはじめ、豚汁、バルーンアート、押し花、京押絵、フラワーアレンジメント、編み物作品等多くの出展がありました。

芳川小学校の5年生が作ったお米の販売では、「お米いかがですかー!」と掛け声をあげ、昇り旗を持ちながら会場内を元気よく行列をなして歩いている姿を今年も見ることができました。

### 各町会でも文化祭が開催されました



村井町文化祭



本工町文化祭



北原町文化祭



山屋町文化祭

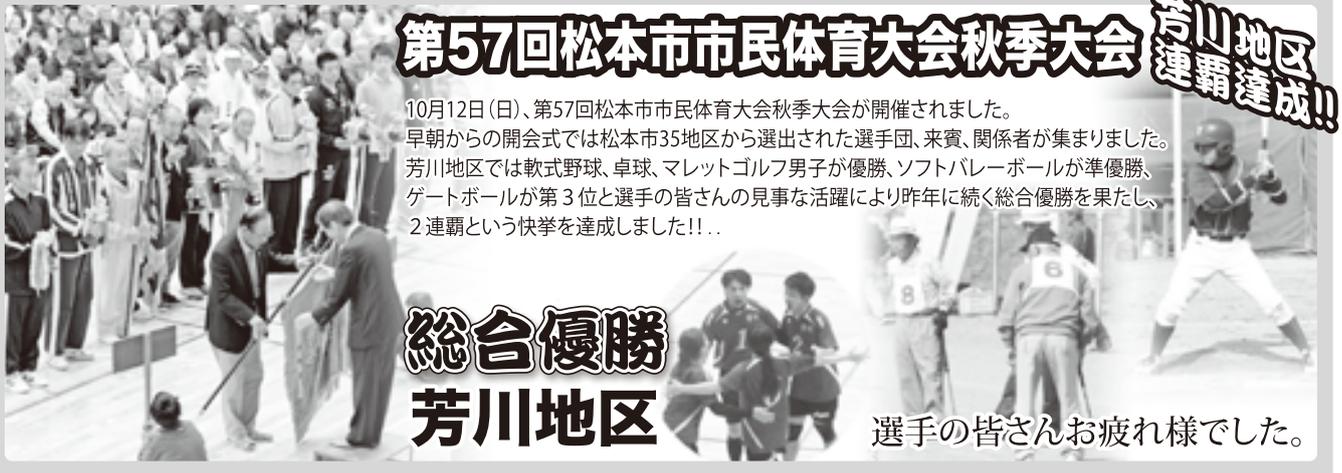
## 第57回松本市市民体育大会秋季大会

芳川地区  
連覇達成!!

10月12日(日)、第57回松本市市民体育大会秋季大会が開催されました。早朝からの開会式では松本市35地区から選出された選手団、来賓、関係者が集まりました。芳川地区では軟式野球、卓球、マレットゴルフ男子が優勝、ソフトバレーボールが準優勝、ゲートボールが第3位と選手の皆さんの見事な活躍により昨年に続く総合優勝を果たし、2連覇という快挙を達成しました!!..

### 総合優勝 芳川地区

選手の皆さんお疲れ様でした。



報告編

芳川地区の大規模避難訓練が行われました。



9月28日芳川公園を中心に芳川地区総合防災訓練が実施されました。当日は各町会から約450人の皆さんが参加し実践的な防災訓練を行いました。

また本年度は筑摩野中の生徒の参加もあり、放水訓練や安否確認、物資運搬そして瓦礫(がれき)からの救出救助などを体験。芳川地区の未来を担う生徒たちも防災意識を高めました。



給水車による飲料水の配給、また炊き出しなど、各町会の担当者のご協力のもと、ありある総合防災訓練になりました。皆さんお疲れさまでした。

芳川ふれあいウォーキング



10月25日に芳川ふれあいウォーキングが開催されました。ウォーキングの前には準備運動を兼ねた子ども会育成会代表によるレクリエーションも行われました。青空のもと120人の参加者が距離ごと3コースに別れて芳川地区内を歩きました。



芳川の今昔物語

第9話

野溝から平田方面を望む

昔



▲昭和40年撮影

野溝の原野で遊ぶ子どもたち。中央のタンクには電化セメントの文字(現在はデンカセメント)がみえる。中山の中腹はまだ開発されておらず、畑が続いている。右手の奥にある木は、南信ヤクルト販売の横にある地藏原の榎の大木であろうか？  
まだ木工団地や市場が出来る前で、当時の芳川の様子が写されている。



撮影されたと思われる周辺一帯はビルが建ち並び、地上からデンカセメントのタンクや南信ヤクルトは見つからない。旧写真の撮影場所から南に移動した高層ビルから撮影。撮影位置は異なるが、50年前とは様相が全く違うことが、一目でわかる。



たちばなし

今年も公演が終わり、劇場という異空間がいつもの芳川公民館 大会議室に戻る▼今年には雨になってしまっ たが、いつもは夕焼け空に映える北アルプスの姿が公演の終わった私たちを慰めてくれる。我々の劇団はこれをここで21年間繰り返ししてきた▼私は芳川公民館で活動するサークルの一員として館報編集委員に参加しており、実際は芳川地区の住民ではない。それでも、「私はこの芳川公民館が第2のふるりの様な気がする」と、以前、芳川地区文化祭実行委員会で話したことがあるが、その気持ちに今も変わりはない▼この芳川公民館で初演を迎えたとき、私はまだ二十代の青年だった。その頃は、今は亡き祖母も観劇に来てくれた。祖母は夢中になり、劇中で結婚申込みをしている私に「ほれ、がんばれ」と声をかけた▼劇を通していろんな人たちの出会いがあった。悲しい別れもあった。なによりも、劇団であいい舎の公演を見にこられたお客さまとの出会いがあった。満員の会場がお客さまの集中力で満ちていた▼このかけがえのない思い出は、思い返せば芳川公民館とともにあった。